

# 『防災・交通インフラの創蓄省エネルギー化による新陸前高田創生』構想

～ 震災の経験・教訓を生かした持続可能な地域社会づくりを目指す ～

代表提案者	一般社団法人 持続可能な地域社会作りイノベーション研究所
協同提案者	陸前高田市・(株)サンエイワーク(日本テレビグループ)・古河電気工業(株)・(株)岡野エレクトロニクス

震災復興を好機として捉え、市内全域で震災の経験を活かした“防災”“交通”“インフラ”の低炭素化・創蓄省エネルギー化の実証や検証を行うテストフィールドとする事で、陸前高田が目指す『災害に強い安全なまち』『市民の暮らしが安定したまち』『環境にやさしいまち』『快適で魅力のあるまち』を具体化し、その技術やノウハウを生かした新たな産業を創出させる事で、『活力あふれるまち』『協働で築くまち』を実現する。

## 復興のまちづくりの基本方向

- 災害に強い安全なまち
- 快適で魅力のあるまち
- 活力あふれるまち
- 市民の暮らしが安定したまち
- 環境にやさしいまち
- 協働で築くまち

ノーマライゼーションという言葉のいないまちづくり

**東日本大震災**  
(2011.3.11)

- 人的被害  
犠牲者1,757人(行方不明者含)
- 被災世帯  
津波による被災世帯 4,063世帯  
地震による被災世帯 3,967世帯

直面する課題  
陸前高田市が

災害に強い安全な、新しい陸前高田のまちづくりに被災の経験をどのような形で、反映させるのか?  
復興支援が終了した後に直面する限られた財政の中での効率的な行財政運営方法と新たな産業をどのように創り上げて行くのか?

**新陸前高田創生**  
～復興のめざすまちの姿～  
海と緑と太陽との共生  
海浜新都市の創造  
(陸前高田市震災復興計画より)


**LP-1; 防災**  
創蓄省エネルギー化された  
新たな防災システムの実証試験と産業化

省エネ化された光ケーブル・無電力センサー・監視カメラ、創エネ機能を持つ独立電源型街灯、蓄電機能を持つ多機能防災施設からなる新しい創蓄省エネ化された防災システムの実証試験を行い、機能・運営方法・維持管理リスクなどに関する各種試験や検証を行い、一定の完成度が確率された時点で、市内に完備していくと共に、機器やシステム運用を商材とする陸前高田の新たな産業としていく。



**LP-2; 交通**  
交通弱者を主体にした  
低炭素型新交通システムの実証試験と導入

高台への住宅地、低地への市街地形成が進む陸前高田市において、社会的な課題である交通弱者と言われる人々の利便性に主眼を置き、再エネによる自立電力利用によるEV車両や市民との協働運営等による、新たな低炭素新交通システムの実証試験を市内で行い、市民の公共交通の確保と共に、観光資源としての導入も計画する。



**LP-3; インフラ(公共施設)**  
地産材を多用した  
低炭素公共建築物の整備と産業化

建設予定の校舎を、地産材を利用したログ構造や自然エネルギーを複合的に取り入れた空調・給湯システムを装備した低炭素公共建築とすると共に、国産ログ建築の総合的な普及拠点として、関連した企業が集約した、『陸前高田ログバレー構想』を立ち上げ、新たな産業とする事を目指す。

